



PROMOTION

## コンデンサ研究開発棟を移転新設




EV市場の急成長が始まり、岡山指月では、電気自動車用コンデンサの生産が拡大しています。今後のさらなる増産を見据えて、生産に携わる者は生産に、開発に携わる者は開発に、より専念できる環境を整えるべく、岡山指月にあるR&Dセンターを移転し、兵庫県西宮市に「コンデンサ研究開発棟」を新設する運びとなりました。R&Dセンター移転後の社屋は、電気自動車用コンデンサの生産棟として活用します。欧米のEV市場への販路拡大へ向けて開発力・生産力ともに増強をはかり、シツキの次なる成長の牽引力としてまいります。




PRODUCT

## 瞬時電圧低下補償装置※ 新商品発売



シツキの瞬時電圧低下補償装置は、大容量から小容量タイプまで幅広くカバーし、国内随一のラインナップを誇ります。この度、低圧・小容量タイプの「SAG-Backupシリーズ」に、ラックマウントタイプの新しい商品が加わりました。これまでラインナップに無かった容量1.2kVAを可能にした業界トップクラスの小型商品です。圧倒的な省スペース・小型設計を実現しながらも、シツキならではの高性能・高機能を追求。分散・少額投資のニーズや、機器への組み込み需要に応えることで、新たな展開が期待できます。

※雷や風雪により起こる瞬時電圧低下(瞬低)。この現象が引き起こす機械の急停止や故障などのリスクから生産ラインを守るのが瞬時電圧低下補償装置です。



鉄道地上設備  
き電保護パック

卒業生の手紙 6

安全運行を支える！  
電流の異常を、  
素早くキャッチ！

鉄道地上設備  
き電保護パック

僕らは、ずっと鉄道を悩ませてきた。高抵抗地絡を解決するために生まれしてきたよ！電気抵抗が強い場所でショートが起きても、変電所では「電車に電力を送っている状態」との区別がつかなかったんだ。僕らはそれをいち早く区別して、お知らせする係。小さくて軽いけれど、意外としっかりものなんです。みんなも喜んでくれて、「第37回オーム技術賞」では第一位に選ばれたよ！

# 秋田指月 創立50周年

～ 地域に雇用を。秋田から世界に誇れるものづくりを～

1968年、秋田県羽後町(うごまち)に誕生した秋田指月。この町に県外企業が拠点を構えるのは、初めてのことでした。当時、豪雪地帯である秋田県では、農閑期になると県外へ出稼ぎに出る人々が多く、「何とか地元で雇用を創出したい」と熱心に企業誘致に取り組まれていました。その熱い想いに感銘を受けた創業者の山本重雄は、秋田での工場開設を決意。それから半世紀にわたり、地域の雇用創出に寄与してきました。

秋田指月は、勤勉で粘り強い県民性に支えられながら成長を重ね、現在4つの工場と研究開発棟を稼働させています。およそ350名の従業員が活躍し、自動車インバータや産業インバータ、IH家電に向けた高性能なコンデンサを開発・製造しています。今後は、急成長が予測されるEV市場に向けて、さらなる生産拡大を進めていきます。秋田から、世界に向けたものづくりを。秋田指月はこれからも、地域の皆様とともに歩み続けてまいります。

### 秋田指月の50年

- 1968 カラーテレビの普及が進む中、電子用フィルムコンデンサの製造を開始。
- 1970 蒸着フィルムコンデンサTME・DMEが、通信機器や家電へ販路を拡大。
- 1975 樹脂ケースタイプのコンデンサCMEを開発。現在、販売累計10億個に迫るヒット商品に。
- 1987 高まる安全性へのニーズに応え、業界に先駆け、保安機構付きのコンデンサを開発。
- 2006 インバータ時代の高度なものづくりへ向け、研究開発棟を建設。
- 2008 HEV車の登場により、自動車に向けたコンデンサの生産が拡大。
- 2014 インバータ用コンデンサのさらなる技術力向上のため第4工場を建設。

そして未来へ

急速な伸張が予測されるEV市場へ向け、アメリカ・ヨーロッパへ販路拡大を。



